

平成29年12月19日開催

## 厚生常任委員会資料【所管事務調査】

上越市歯科保健計画について

上越市歯科保健計画（概要）・・・・・・・・・・ 1～2

上越市歯科保健計画改定版（案）・・・・・・・・・・ 別冊

## 上越市歯科保健計画（概要）

### 1 目標

歯や口腔の健康状態を保ち、生活の質（QOL）を維持・向上させる

### 2 これまでの取組の成果

- ・むし歯に関する歯科保健対策は着実な成果を上げ、幼児期から学童期において、むし歯有病率が年々減少を続けています。
- ・「70～74歳で自分の歯が24本以上ある人」の割合は、平成23年度から5.8ポイント増加しており、80歳で20本以上自分の歯がある人は今後増加していくと見込まれます。

表1 3歳児及び小中学生のむし歯有病率

区分	H23年度	H28年度	比較
3歳児	15.7%	10.2%	△5.5
小学生	8.4%	5.5%	△2.9
中学生	28.2%	17.4%	△10.8

資料：歯科疾患実態調査

表2 70～74歳で自分の歯が24本以上ある人の割合

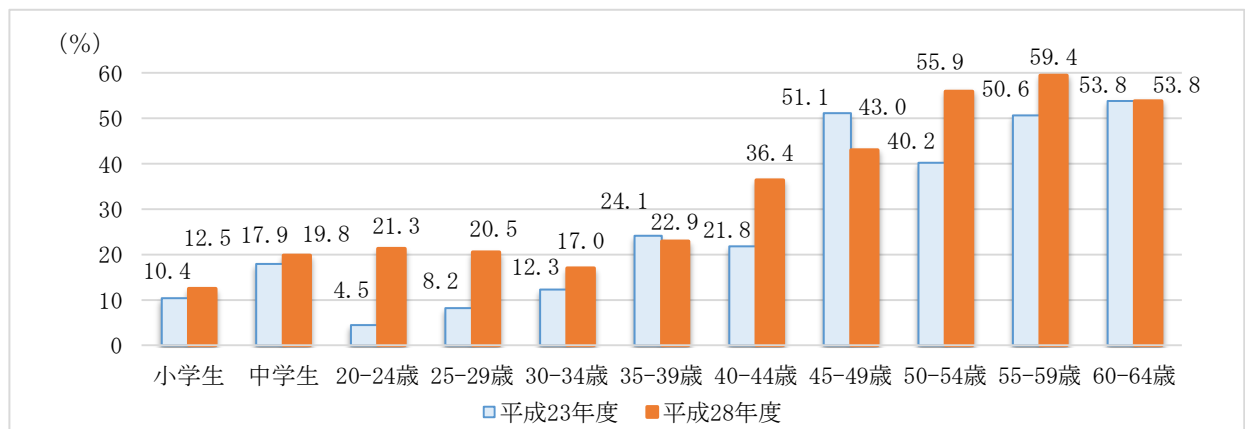
H23年度	H29年度	比較
44.7%	50.5%	5.8

資料：特定健診会場における聞き取り調査結果

### 3 課題

- ・歯や口腔の健康を守るための生活リズム及び食習慣の認識不足や、適切なブラッシングが行われていないこと等により、歯周病の発症が低年齢化し、歯周病と診断される人も増加しています。
- ・生涯を通じてかかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科健診やメンテナンスを受けていく必要性についての認識が不足しています。

図1 歯肉に炎症所見を有する人の割合



資料：歯科疾患実態調査、上越市成人歯科健診結果から作成

### 4 今後の取組の方向性

むし歯と歯周病の発症予防において、生活習慣病等との関連も含めて取組を推進していきます。

また、歯の喪失予防と口腔機能の維持・向上のための取組は、歯・口腔の健康における重症化予防や介護予防の観点からも重要であると考えます。

- ・適切な生活リズムと食習慣の実践に向けた健康教育を実施します。
- ・かかりつけ歯科医を持ち、生涯を通じたセルフケアと歯科メンテナンスの継続について啓発します。
- ・高齢者に対し、オーラルフレイルや認知症、誤嚥性肺炎等の予防に関する口腔機能の維持・低下予防の健康教育を実施します。

	現計画の評価等				見直し後の計画の指標等				
	現計画の目標	主な取組	中間評価 ●達成 ▲未達成	課題	施策の方向性	主な取組	評価指標		
乳幼児期	家族で子どもの歯の健康を守る意識の向上と口腔ケアの習慣化	1 幼児歯科健診の実施 2 幼児歯科健診におけるフッ化物歯面塗布の実施 3 幼稚園・保育園でのフッ化物洗口の実施・拡充 4 健康教育・健康相談の実施	●3歳児のむし歯有病率の減少	○適切な生活リズムと食習慣の形成が咀嚼等の口腔機能の獲得につながることを理解できていない。  ○1歳から生涯を通じてかかりつけ歯科医をもつことが定着していない。  ○3歳児以降の園児(4.5.6歳児)のむし歯有病率が年齢とともに上昇している。	・生活リズムを基盤とした体づくりと、咀嚼や嚥下等の口腔機能を獲得するための食生活の実践  ・保護者による適切なブラッシングの実践	1 健康教育・健康相談の実施 2 幼児歯科健診の実施 3 幼児歯科健診におけるフッ化物歯面塗布の実施 4 幼稚園・保育園でのフッ化物洗口の実施・拡充  【新規】 幼児歯科健診時、フッ化物歯面塗布未実施者の理由の把握	・3歳児のむし歯有病率の減少(H28)10.2%→(H34)10%  【新】 5歳児(園児)のむし歯有病率の減少(H28)33.4%→(H34)30%		
			●12歳児のむし歯有病率の減少 ▲中学生の歯周病判定率の減少	○歯周病判定率の増加と、歯周病と判定される児童・生徒の低学年化  ○児童・生徒の食習慣や生活リズムの乱れがある。	・体をつくる生活習慣の確立と、食習慣の選択や咀嚼からの口腔機能の獲得  ・小学5年生までの保護者による仕上げ磨きと、子ども自身による適切なブラッシングの実践	1 健康教育・健康相談の実施 2 歯科検診の実施 3 フッ化物洗口の実施・拡充  【新規】 高校生の口腔状態や口腔ケアの実態の把握	・12歳児のむし歯有病率の減少(H28)14.5%→(H34)14%  【新】 小学生の歯周病判定率の減少(H28)12.5%→(H34)10% ・中学生の歯周病判定率の減少(H28)19.8%→(H34)12%  【新】 高校生の歯周病判定率の減少(H28)25.7%→(H34)18%		
学童・思春期	子ども自身の歯や口の健康を守る意識の向上と身体をつくる生活習慣の確立	1 歯科検診の実施 2 フッ化物洗口の実施・拡充 3 健康教育・健康相談の実施	▲25～29歳、45～49歳、60～64歳における進行した歯周病を有する人の減少	○成人歯科健診受診率の低迷  ○歯科健診受診者におけるむし歯・歯周病有病率の増加  ○かかりつけ歯科医で定期的に健診やメンテナンスを受ける意識が定着していない。	・疾病予防や生活習慣の改善につながる歯や口腔の健康管理の実践	1 健康教育・健康相談の実施 2 成人歯科健診の実施  【新規】 「生活歯援プログラム」を活用したセルフチェックと、受診の動機づけ	【改】 進行した歯周病(歯周ポケット4mm以上)を有する人の減少(H28)→(H34) 20代:20.9→18%.30代:20.0→18% 40代:39.7→36%.50代:57.7→45% 60代:60.5→50%  【改】 未処置歯のある人の減少(H28)%→(H34) 20代:33.4→15%.30代:24.7→15% 40代:36.0→18%.50代:46.3→23% 60代:37.4→25%  ・45～49歳で喪失歯がない人の増加(H28)61.6%→(H34)80% ・60～64歳で自分の歯が24本以上ある人の増加(H28)82.1%→(H34)現状維持  ・過去1年間に歯科健診を受診した人の増加(H28)26.1%→(H34)50%以上		
			▲45～49歳で未処置歯のある人の減少						
			●60～64歳で未処置歯のある人の減少						
			▲45～49歳で喪失歯がある人の減少 ▲60～64歳で自分の歯が24本以上ある人の増加						
			▲過去1年間に歯科健診を受診した人の増加						
成人期	全身の健康とつながる歯や口腔の健康管理の実践	1 成人歯科健診の実施 2 健康教育・健康相談の実施	▲25～29歳、45～49歳、60～64歳における進行した歯周病を有する人の減少	○成人歯科健診受診率の低迷  ○歯科健診受診者におけるむし歯・歯周病有病率の増加  ○かかりつけ歯科医で定期的に健診やメンテナンスを受ける意識が定着していない。	・疾病予防や生活習慣の改善につながる歯や口腔の健康管理の実践	1 健康教育・健康相談の実施 2 成人歯科健診の実施  【新規】 「生活歯援プログラム」を活用したセルフチェックと、受診の動機づけ	【改】 進行した歯周病(歯周ポケット4mm以上)を有する人の減少(H28)→(H34) 20代:20.9→18%.30代:20.0→18% 40代:39.7→36%.50代:57.7→45% 60代:60.5→50%  【改】 未処置歯のある人の減少(H28)%→(H34) 20代:33.4→15%.30代:24.7→15% 40代:36.0→18%.50代:46.3→23% 60代:37.4→25%  ・45～49歳で喪失歯がない人の増加(H28)61.6%→(H34)80% ・60～64歳で自分の歯が24本以上ある人の増加(H28)82.1%→(H34)現状維持  ・過去1年間に歯科健診を受診した人の増加(H28)26.1%→(H34)50%以上		
			▲45～49歳で未処置歯のある人の減少						
高齢期	生活の質を守るための歯や口腔機能の維持と口腔ケアの継続	1 成人・後期高齢者歯科健診の実施 2 健康教育・健康相談・訪問事業の実施	●70～74歳で自分の歯が24本以上ある人の増加	○成人・後期高齢者歯科健診の受診率の低迷  ○かかりつけ歯科医で定期的に健診やメンテナンスを受ける意識が定着していない。  ○口腔機能の維持及び低下予防のための取組の継続	・生活の質を守るための歯や口腔機能の維持と口腔ケアの継続	1 健康教育・健康相談、訪問事業の実施 2 成人・後期高齢者歯科健診の実施  【新規】 口腔機能の一つの指標となる「咀嚼」の実態把握	・70～74歳で自分の歯が24本以上ある人の増加(H28)50.5%→(H34)70%  【新】 過去1年間に歯科健診を受診した人の増加(H28)40.7%→(H34)60%  【新】 何でもよく噛んで食べることができる人の増加(H28)参考値…60代:66.5%.70代:73%→(H34)70%		
			▲過去1年間に歯科健診を受診した人の増加						
障害児・者	個々の状態に適した歯の健康を守るための意識の向上と口腔ケアの習慣化	1 歯科健診の実施 2 健康教育の実施	▲歯科健診を受診した人の増加	○障害児(者)施設における歯科健診の実施が十分でない。  ○要介護者の口腔機能維持及び低下予防に向けた在宅歯科医療連携室の周知が不十分	・個々の状態に適した歯の健康を守るための意識の向上と口腔ケアの習慣化	1 歯科健診の実施 2 健康教育の実施  【継続】 障害児(者)歯科保健推進事業未利用施設に対する働きかけ	・障害児(者)歯科保健推進事業実施施設の増加(H28)50%→(H34)100%		